

今日から始めよう バードウォッチング

テーマ 野鳥の食べるもの



←大きなフナを丸呑みするカワウ

↓サクラの花芽を食べるウソ



主催 千葉市緑公園緑地事務所
千葉県自然観察指導員協議会

野鳥の食べる物

人間も野鳥もすべての動物は生きるために何か物を食べなければなりません。

鳥が何を食べて生きているか、その全容は到底分かりませんが、これまでの野外観察や、TVなどの画像、文献などからその一部が垣間見えます。

単に植物の実や種を餌にするとと言っても利用する植物の種類は多く、食べる部分や食べ方など多彩であるのは事実です。餌が動き回る動物であれば捕まえる方法も色々、食べ方も色々です。

それらを右の表にまとめて見ましたが、表はまだ不完全で観察者の見間違いや思い違い等があると思いますから、皆さんの目で確かめた上、修正して精度を高めて下さい。

それぞれの種類が多様な食物を巧みに利用している結果、沢山の種類の野鳥が地球上に生きてけるのだと思います。もし同じ食べ物に集中して争えば、共倒れになってしまうでしょう。



柿を突つつくムクドリ



サクラの蜜をなめるメジロ



ボラを鷲づかみのミサゴ



ミミズを丸呑みするアカハラ

地球上に鳥類が現れてから絶え間ない生存競争の結果、色々な種類が盛衰を繰り返してきたと思います。

生存競争の勝者は必ずしも体が大きく力の強いものとは限りません。その時々環境に適合して十分な餌が確保できれば、力の弱いものでも繁栄できるでしょう。

人為的な自然破壊や気候変動により野鳥を取り巻く環境が大きく変わりつつあります。

これからも環境にうまく適応出来て十分な餌を確保した種類が繁栄し、できなければ絶滅するかもしれません。生きる事と食べる事は同じ意味かもしれません

野鳥の食べる物

植物

部位

実

食べ方

丸呑み

果肉をはがす

突つつく

種

丸呑み

突つつく

落して殻を割る

ワックス層をそぎ取る

蕾

かみつぶす

花びら

かみつぶす

ついばむ

蜜

なめる

食いちぎる

葉

ついばむ

新芽

ついばむ

むしり取る

根

食いちぎる

茎

むしり取る

樹液

飲む

海藻

むしり取る

植物の種類

ムラサキシキブなど

サワフタギ

柿 リンゴ

穀類 ドングリ類

エゴ

クルミ

ナンキンハゼ

アキニレ 未熟な稲穂

サクラ

ツバキ コブシなど

ウメ サクラなど

サクラ

ブロッコリー等

落花生 大豆

麦類

稲

稲 (二番穂)

カエデ

アオサ

野鳥の種類

メジロ ジョウビタキなど

シジュウカラ ヤマガラ

メジロ ヒヨドリなど

スズメ オシドリなど

ヤマガラ

ハシボソガラス

シジュウカラ ヤマガラ

マヒワ スズメなど

ウソ

ヒヨドリ

メジロ ヒヨドリなど

スズメ

ヒヨドリ

キジ ハト

白鳥

ガン ハクチョウ

白鳥

エナガ

ヒドリガモ オオバン

動物

魚類

獲り方、食べ方など

嘴ではさむ

突き刺す

潜水

ダイビング

爪でつかむ

死肉

貝類

潜水して獲る 丸呑み

中身を取り出す

落して殻を割る

甲殻類

巣穴から掘りだす

つまむ

ダイビング

哺乳類

爪でつかむ

死肉 (轢死など)

鳥類

爪でつかむ 肉片にする

爬虫類

爪でつかむ

両生類

嘴ではさむ

昆虫 (羽虫)

空中捕獲

(甲虫)

夜間捕獲

(幼虫)

ヒナの餌

(幼虫)

巣を壊す

節足動物

落ち葉を掻き分ける

環形動物

地面を突く・叩く

サギ類

サギ類

カイツブリ ウ類

カワセミ アジサシなど

ボラ コイなど

二枚貝類

二枚貝類

巻貝など

カニ類

カニ類

エビ類

ネズミ ウサギなど

イヌ ネコ タヌキなど

スズメ ハトなど

ヘビ類

カエル オタマジャクシ

ブヨ ハエ トンボなど

カブトムシ クワガタ

アオムシ ウジなど

ハチ類

ヤスデなど

ミミズ ゴカイなど

ドジョウなど小魚

コイなど大物

モツゴ ボラなど

モツゴ イワシなど

ミサゴ

カモメ トビ カラス

スズガモなど

ミヤコドリ

ハシボソガラス

ダイシャクシギなど

シギやチドリの仲間 ウミネコなど

カワセミ

フクロウ イヌワシ

カラス トビ

オオタカ ハヤブサ

サシバ

サギ類

ツバメ ヨタカ ヒタキ類

アオバズク ヨタカ

スズメ ムクドリなど

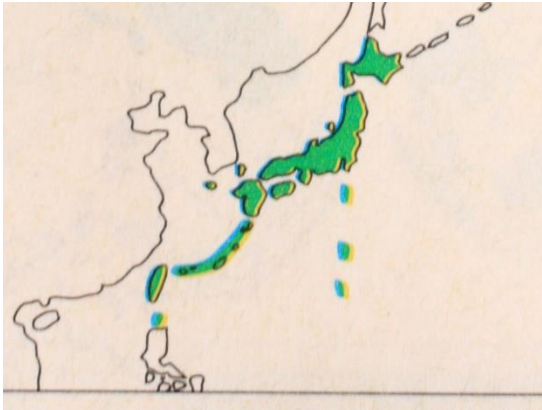
ハチクマ

トラツグミ

ツグミ類 シギやチドリの仲間

ヒヨドリ大繁殖の秘密

都市部の公園から校外、山地まで樹林のある所では必ずと言って良いほどヒヨドリの声が聞こえます。色彩は地味、声も騒がしくてバードウォッチングでは人気がありません。



しかし、この鳥の分布範囲はほぼ日本に限られますから世界的に見ればかなりの珍鳥と言えます。

(着即部分に分布 北海道では越冬せず)

(渡りをする大群 千葉県富津岬にて)

70 年前まで関東では冬に渡来するだけの鳥でしたから、関東で初めて繁殖が確認されたときは野鳥観察者にとってビッグニュースだったそうです。その後短期間に繁殖地を広げ大繁殖している秘密は何でしょうか？

色々な種類の木の実を食べるだけでなく、果樹、花の蜜、花卉、野菜の葉、セミなどの昆虫まで食べ、雛にカタツムリを与えた事もありました。とにかく何でも食べる逞しい鳥です。

にも拘わらず生息範囲が狭いのも不思議で、興味がつきません。

ヒヨドリ以外に増えていると思える鳥の種類はカワウ、オオバン、オシドリ、ハクセキレイ等があります。

理由はそれぞれ異なると思いますので、更なる正確な調査、観察が必要です。



(ロウバイの花弁を食べる)



(カタツムリを雛に与える)

お願い 観察会の様子を撮影し、ホームページや広報に使います。撮影お断りの方は事前に申し出て下さい。

今月の担当は 坂本文雄 田邊裕美

来月の昭和の森 行事案内

2020 年 2 月 9 日(日) 13 時～15 時 12:40 から受付

テーマ：「冬の植物の過ごし方」

集合場所 第 2 駐車場近くの東屋

参加費 50 円 (保険料)

北総の野鳥60種 ミニ図鑑(冬期版)



1 キジ キジ目 キジ科



2 オンドリ カモ目 カモ科



3 オカヨシガモ カモ目 カモ科



4 ヒドリガモ カモ目 カモ科



5 マガモ カモ目 カモ科



6 カルガモ カモ目 カモ科



7 ハシビロガモ カモ目 カモ科



8 オナガガモ カモ目 カモ科



9 コガモ カモ目 カモ科



10 ホシハジロ カモ目 カモ科



11 キンクロハジロ カモ目カモ科



12カイツブリ カイツブリ目 カイツブリ科



13 キジバト ハト目 ハト科



14 カワウ カツオドリ目 ウ科



15 ゴイサギ ペリカン目 サギ科



16 アオサギ ペリカン目 サギ科



17 ダイサギ ペリカン目 サギ科



18 コサギ ペリカン目 サギ科



19 バン ツル目 クイナ科



20 オオバン ツル目 クイナ科



21 ミサゴ タカ目 ミサゴ科



22 トビ タカ目 タカ科



23 オオタカ タカ目 タカ科



24 ノスリ タカ目 タカ科



25 フクロウ フクロウ目 フクロウ科



26 カワセミ ブッポウソウ目カワセミ科



27 コゲラ キツツキ目 キツツキ科



28 アカゲラ キツツキ目キツツキ科



29 チョウゲンボウ ハヤブサ目 ハヤブサ科



30 モズ スズメ目 モズ科



31 カケス スズメ目 カラス科



32 オナガ スズメ目 カラス科



33 ハシボソガラス スズメ目カラス科



34 ハシブトガラス スズメ目カラス科



35 ヤマガラ スズメ目 シジュウカラ科



36 シジュウカラ スズメ目シジュウカラ科



37 ヒバリ スズメ目 ヒバリ科



38 ヒヨドリ スズメ目 ヒヨドリ科



39 ウグイス スズメ目ウグイス科



40 エナガ スズメ目 エナガ科



41 メジロ スズメ目 メジロ科



42 ヒレンジャク スズメ目レンジャク科



43 ムクドリ スズメ目ムクドリ科



44トラツグミ スズメ目 ヒタキ科



45 シロハラ スズメ目 ヒタキ科



46 アカハラ スズメ目ヒタキ科



47 ツグミ スズメ目 ヒタキ科



48 ルリビタキ スズメ目ヒタキ科



49 ジョウビタキ スズメ目ヒタキ科



50 スズメ スズメ目 スズメ科



51 キセキレイ スズメ目セキレイ科



52 ハクセキレイ スズメ目セキレイ科



53 セグロセキレイ スズメ目 セキレイ科



54 タヒバリ スズメ目セキレイ科



55 カワラヒワ スズメ目アトリ科



56 ベニマシコ スズメ目 アトリ科



57 ホオジロ スズメ目ホオジロ科



58 カシラダカ スズメ目ホオジロ科



59 アオジ スズメ目 ホオジロ科



60 オオジュリン スズメ目ホオジロ科

「冬の植物の過ごし方」



千葉市緑公園緑地事務所
千葉県自然観察指導員協議会

1 植物の冬越し

ラウンケルの生活形（休眠芽の位置）

- ① 一年生植物・・・種で冬越し
- ② 地中植物・・・地中に休眠芽を形成（ユリの仲間、カタクリ等）
- ③ 半地中植物・・・地表に接した部分に休眠芽を形成。
ロゼット型で冬越しをする種類が多い（タンポポ類、ススキ等）
- ④ 地表植物・・・地表から少し上（30cm 以下）の部分に休眠芽を形成（ヤブコウジ等）
- ⑤ 地上植物・・・地表から 30cm 以上の高さに休眠芽を形成（一般的な樹木類）

2 樹木の冬越し（冬芽の豆知識）

① 冬芽とは

春になれば伸び出す花、葉、枝が冬ごしをしている姿（植物の冬眠）。

② どうして冬芽をつくるのか

冬の寒さと乾燥から身を守るため。1 年中高温で降水量の多い熱帯多雨林の樹木では冬芽をつくらない樹木が多い。

③ 冬芽の中はどうなっているのか

翌春に成長する葉や花が小さく包み込まれている。樹木により次の年に生える葉がすべて冬芽に含まれている種と、当面の分だけ含まれている種がある。

④ 冬芽の意外なはたらき

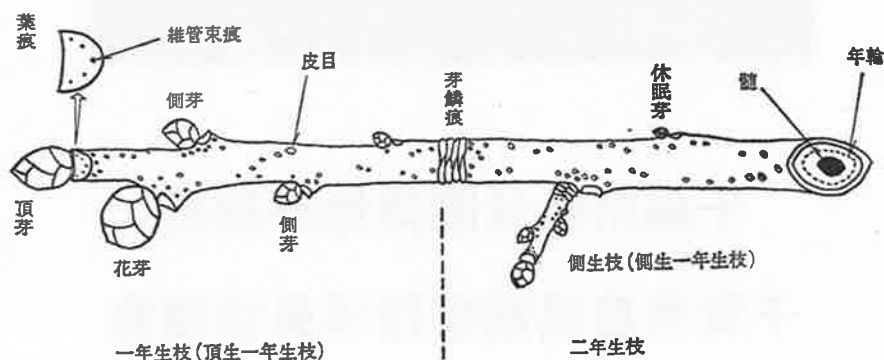
冬芽は次の年の葉や花が小さく押し込められているため、小さい割には栄養価が高い。このため、野生動物にとっては、えさの少ない冬季の貴重な食料源となっている。

3 冬芽の形態

① 寒さと乾燥から身を守る方法

- ・ 毛皮タイプ・・・コブシなど
- ・ 重ね着タイプ（厚着派）・・・コナラ、アカシデ、イヌシデなど
- ・ 重ね着タイプ（薄着派）・・・カキノキ、カツラなど
- ・ 裸タイプ・・・ニガキ、ムラサキシキブ、ハクウンボクなど

② 冬芽の形態図



4 冬芽を観察しよう

樹木の名前	主な特徴
イヌシデとアカシデ	冬芽の先をさわってみよう。どっちが痛いかな？
コナラ	何枚重ね着しているかな？
カシワ	もしもの保険に
ニガキ	裸でも寒くないよ
ハナミズキ	花芽と葉芽を比べてみよう
イロハモミジ	枝の伸び方がカツラに似ているけどどこか違う
ハクウンボク	落ち葉を拾ってよく観察しよう。
トチノキ	冬芽を触ってみよう
ハリエンジュ	冬芽のかくれんぼ

5 樹木の戦略

① スタートダッシュタイプ

春先に短期間で一気に枝葉を伸ばして成長をやめる樹木。

- ・ 特徴・・・冬芽が比較的大きい。枝がまっすぐ成長する。
- ・ 主な樹木・・・コナラ、カシワ、トチノキ、ニガキなど

② あわてずさわがずのんびりタイプ

春から秋にかけて時間をかけてゆっくり枝葉を伸ばす樹木。

- ・ 特徴・・・冬芽が比較的小さい。枝がジグザグに成長する。
- ・ 主な樹木・・・クリ、カツラ、ケヤキ、サクラ類など

6 1年に伸びた枝の長さを調べよう

樹木の名前	1年間に伸びた長さ
シラカシ	

7 新芽が開く姿を表現した日本語

「芽ぐむ」「芽吹く」「芽立つ」

8 徒然草155段（抜粋）

春暮れて後、夏になり、夏果てて、秋の来るにはあらず。春はやがて夏の気を催し、夏より既に秋は通ひ、秋は即ち寒くなり、十月は小春の天気、草も青くなり、梅も蕾みぬ。木の葉の落つるも、先づ落ちて芽ぐむにはあらず、下より萌しつはるに堪へずして落つるなり。迎ふる気、下に設けたる故に、待ちとる序甚だ速し。生・老・病・死の移り来る事、また、これに過ぎたり。四季は、なほ、定まれる序あり。死期は序を待たず。死は、前よりしも来らず。かねて後に迫れり。人皆死ある事を知りて、待つことしかも急ならざるに、覚えずして来る。沖の干潟遥かなれども、磯より潮の満つるが如し。

（吉田兼好）

参考文献：四手井綱英他 1978「落葉広葉樹図譜」共立出版、佐藤大七朗 1983「樹木」文永堂、
亀山章 1984「冬芽でわかる落葉樹」信濃毎日新聞社

お知らせ

3月8日 昭和の森観察会 テーマ「早春の生き物たち」

千葉県自然観察指導員協議会ホームページ <http://www5e.biglobe.ne.jp/~sizenchi/>

「観察会の中で撮った写真をホームページに掲載する場合があります。掲載をご遠慮したい方は、指導員にその旨お申し出下さい。」

今月の担当者：佐野由輝、梅宮玲子